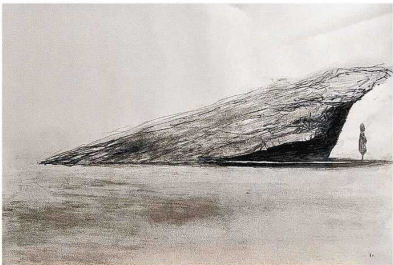


# 太陽、地球、人 つなぐ巨木

④ 藤原千也さん(提供写真)  
⑤ 「太陽のふね」のイメージスケッチ



## 本郷新彫刻賞に藤原さん

作品が多くの人々の目に触れる機会を50歳未満の彫刻家に与える第4回本郷新記念札幌彫刻賞に、十勝管内中札内村の藤原千也さん(45)の「太陽のふね」が選ばれた。巨木を模した大作で、来年5月中旬から3年間、札幌芸術の森美術館中庭(札幌市南区)に設置される。



全国各地の公共空間や野外に数多くの作品を設置した札幌出身の彫刻家、本郷新(1905〜80年)の功績を記念し、2014年から3年に1度贈られている。今年は全国から18件の応募があり、酒井忠康・世田谷美術館館長ら選考委員6人が審査した。

藤原さんは札幌出身。中札内高等養護学校教諭を務めながら創作に打ち込み、岡本太郎現代芸術賞特別賞(2020年)などの受賞歴がある。今回の作品は樹木や樹皮、鉄を使い、高さ3・8メートル、幅3・4メートル、奥行き

19メートルのサイズで地中に大部分が埋まった巨木を表現。内部は暗い空洞だが、ある時刻に陽光が差し込んで数十センチの光の帯が現れる作りで、「太陽という生命と、地球の奥と私たちがつながり合う瞬間を鑑賞者の皆様と共有できる日を楽しみに制作してまいります」とコメントした。藤原さんには賞金100万円と制作費50万円が贈られる。同賞の過去3作は札幌市中央区の大通交流拠点地下広場に置かれてきた。そのスペースを含む改装計画を受け、今回は新たな設置場所を屋外に求めた。選考委員の一人で本郷新記念札幌彫刻美術館の吉崎元章館長は「かなり綿密に、この場所に適したプランが組み上げられている。風雪を受けてどのように変化していくかも楽しみ」という。藤原さんの受賞記念展も来年9〜12月、同館で行う予定。(渡部淳)

## 21日から55周年展 北海道陶芸会

北海道陶芸会(中村裕会長)は、創立55周年を記念した展覧会「陶・新時代―北からのメッセージ」を、21日から11月5日まで札幌芸術の森工芸館(札幌市南区)で開く。2004年から交流している米国立オレゴン陶芸家協会の会員も訪れ、技法の実演などを行う。北海道陶芸会は1968年発足。プロ陶芸家の集まりとして毎年、会員展や講演会などを開いている。記念展には会員32人と、招待作家(小山耕一、石田和也)、オレゴン陶芸家協会の24人が出品する。中村会長は「産地としての歴史は浅い北海道にも多様な作家がいることを知ってほしい」と来場を呼びかける。無料。会期中無休。催しの

予約申し込みや問い合わせは同会の事務局の多田さん、電子メール masayoda@yahoocom (梁井朗)

会期中の主な催しは次の通り。参加費が必要なものは要予約。

- ◇ワークショップ「子供も大人も縄文土器ドキ」 21日午後1時30分、22日午前10時、25日0時(粘土代含む)。11月3日午前10時から野焼き(見学自由)
- ◇デモンストレーション▽22日午後1時30分 石田和也▽23日「超絶技法」 2千円▽26日午前10時、午後1時30分 オレゴン陶芸家協会。無料
- ◇ワークショップ「不思議な浮き彫り技法」▽29日午前10時、午後1時30分 小山耕一。3千円
- ◇キャラリートーク▽23日午後1時30分、24日午後1時30分。無料